

2026年12月期 第2四半期(中間期) 決算説明会資料

2026年8月13日
株式会社ズーム

- ・構造改革の効果が顕在化

固定費削減・原価改善が進み、営業利益6.1億円まで回復

- ・市場回復と新製品が売上を下支え

円安に加え、Handy Recorderの実売改善とStudioシリーズが寄与

- ・キャッシュ創出力も改善

営業CF 11.4億円を確保

I. 2026年12月期 第2四半期決算

2025年2Q 「有事」認定 → 2025年4Q 構造改革を断行 → 2026年2Q 利益回復として成果が顕在化

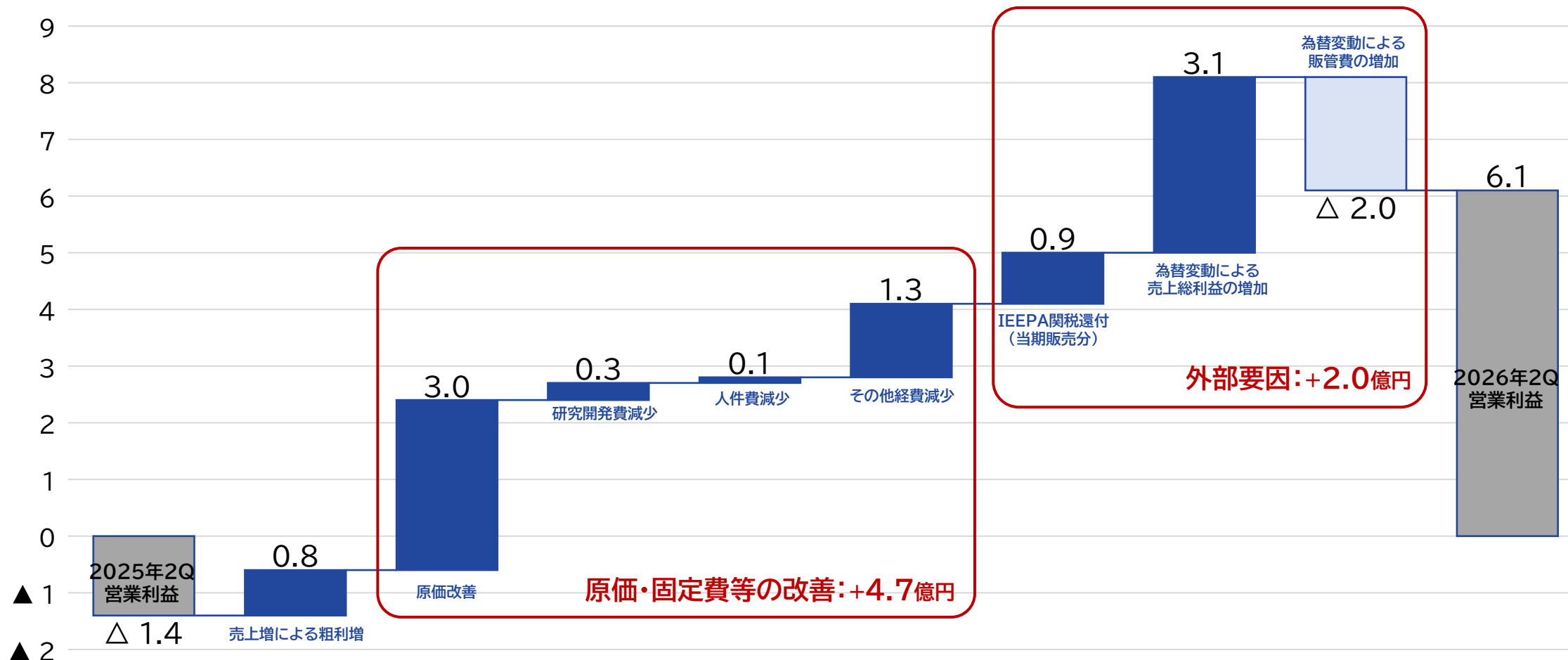
(億円)	2025.12期 2Q実績	2026.12期 2Q実績	増減額	
売上高	79.8	90.9	11.1	・ 円安効果約9.4億円を含む一方、為替影響除外後も+1.8億円(+2.2%) ・ Handy Recorderの実売改善とStudioシリーズの寄与により実質増収
営業利益	△1.4	6.1	7.6	・ 米国IEEPA関税の還付を受け、当期販売分0.9億円を売上原価から控除 ・ 為替・関税還付の影響を除いても営業利益4.0億円を確保
親会社株主に 帰属する 中間純利益	△4.1	2.7	6.9	・ 過年度関税還付+1.9億円、英国VAT追徴△1.2億円を織り込み ・ 営業黒字化と特別損益を反映し、2.7億円の黒字へ回復
EBITDA	2.5	9.3	6.7	・ 収益力の回復を反映し、EBITDAは9.3億円まで改善

EBITDA＝営業利益＋※減価償却費
※のれん償却費144百万円(前年231百万円)を含む

	2025.12期2Q	2026.12期2Q	増減額
研究開発費	5.0億円	4.7億円	△0.2億円
為替差損益	△0.5億円	△0.0億円	△0.4億円
平均為替レート(円／米ドル)	148.4円	158.2円	9.8円
(円／ユーロ)	162.2円	184.5円	22.3円

収益構造の改善により、為替・関税還付を除いても営業利益4.0億円

(億円)



地域ごとに回復の濃淡は残る一方、Handy Recorderの実売が改善。HARが増収を牽引し、PFRも伸長

市場動向：地域ごとに回復の濃淡

北米

・上期売上(ドルベース)は前年並みもHARの実売が改善
Essential系を中心に実売が改善、主要オンラインチャンネルも回復傾向

欧州

・Sound Service地域は上期販売が堅調
ドイツ本社・SS UKとも売上・利益が前年を上回る

南欧

・Mogarは上期前年割れも、足元は回復傾向
取扱いブランドは+20%と堅調。ZOOM製品も足元で急回復

日本 その他

・国内販売は前年比△2%、HookUpは△8%と弱含み
一方、中国・ロシア・UAE等は+43%と好調

製品動向：HARが成長を主導

HAR売上

+34%

14.6億円 → 19.6億円

Essentialシリーズなど従来製品の実売が改善し、Studioシリーズが高音質需要を上積み

PFR売上

+27%

5.1億円 → 6.6億円

F2、F8n Pro等の伸長に円安効果も加わり増収

一部カテゴリー Digital Mixer / Multi Track Recorder DMX 9.2 → 8.9億円 / Multi Effecter MFX 6.3 → 6.0億円

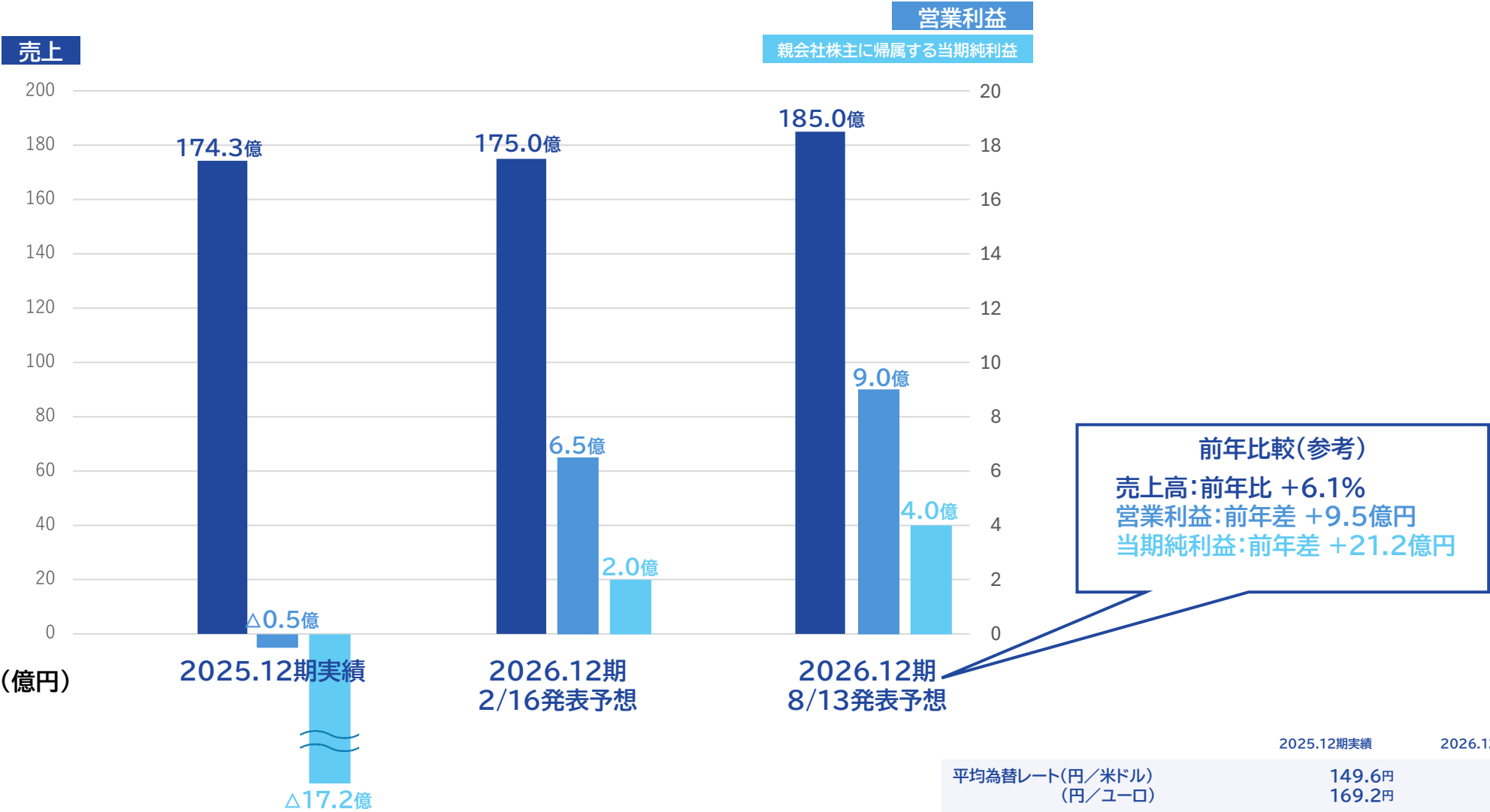
DMX・MFXカテゴリーは前年割れ。全面回復ではなく濃淡あり

Ⅱ. 2026年12月期 業績予想

上半期の好調、円安および関税還付等を反映し、通期業績予想を上方修正。配当予想は据え置き

(億円)	2026.12期 2/16発表予想	2026.12期 8/13修正予想	増減額	
売上高	175.0	185.0	10.0	上半期は概ね計画を上回って推移し、円安も売上高を押し上げたことから、通期売上高を185億円に上方修正。下半期の需要動向に残る不確実性も織り込む
営業利益	6.5	9.0	2.5	上半期は増収に加え、構造改革による原価改善・固定費削減が進展。当期販売分のIEEPA関税還付0.9億円も寄与したことから、営業利益を9.0億円に上方修正。下半期の事業環境に残る不確実性も織り込む
経常利益	5.5	8.0	2.5	営業利益の改善を受け、経常利益も8.0億円に上方修正
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2.0	4.0	2.0	経常利益の増加に加え、過年度分関税還付1.9億円を特別利益に計上する一方、英国VAT追徴1.2億円を特別損失に織り込み、前回予想比2.0億円増の4.0億円を見込む
一株当たり 当期純利益	46.24円	92.60円		
一株当たり 配当金	32円	32円		
配当性向	69.2%	34.6%		

前年比で売上高6.1%増、営業利益・当期純利益とも黒字転換を見込む



Ⅲ. トピックス

20年にわたり、変化する録音ニーズに応じてHandy Recorderの価値を継続的に再定義

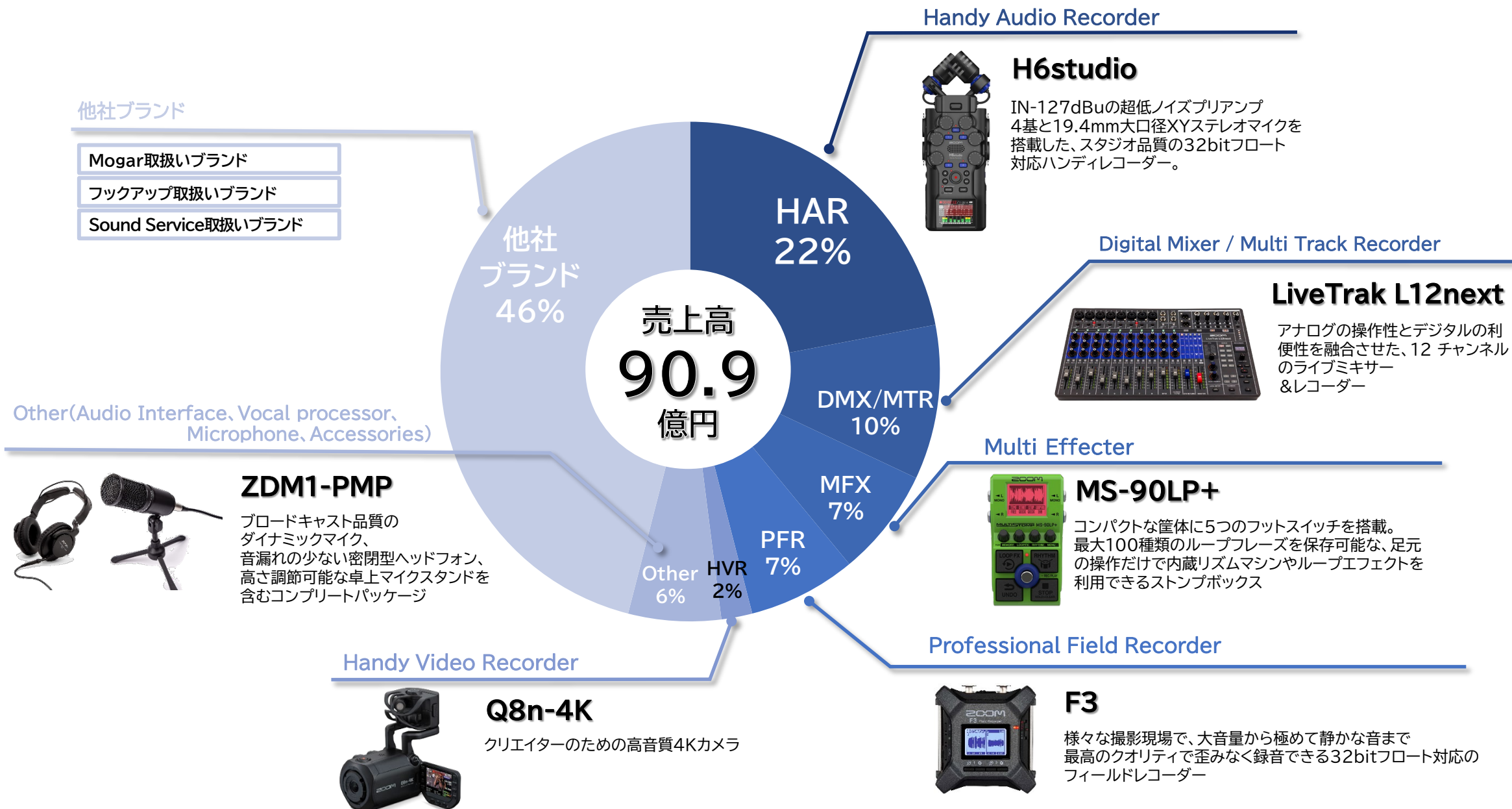


2026年上半期

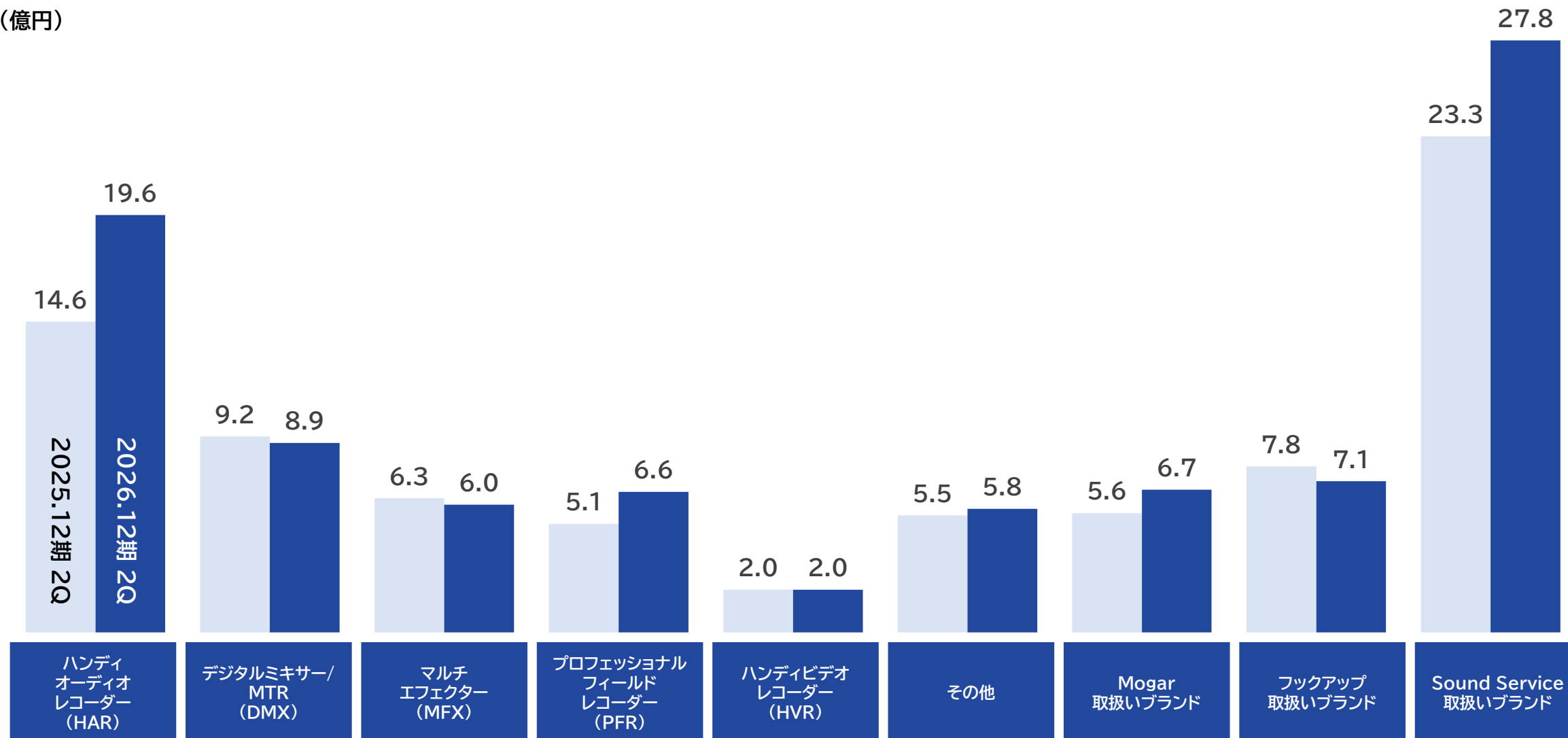
- ・Essentialシリーズなど従来製品の実売が改善
- ・Studioシリーズが高音質需要を上積み

ワイヤレスマイクの普及やスマートフォンの高音質化など、Handy Recorder市場への逆風となる構造変化は継続。だからこそ、クリエイターの課題を発見・解決し、Handy Recorderの価値を再定義し続ける

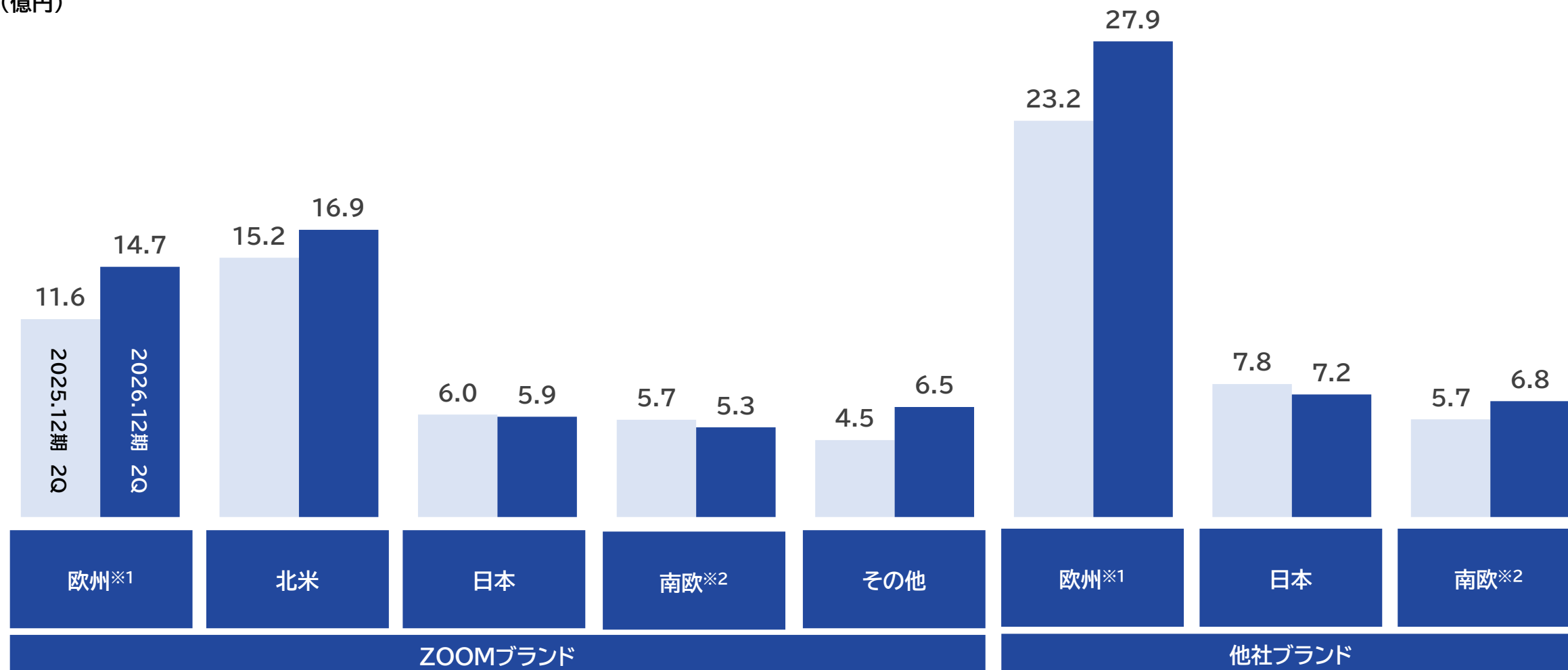
IV. 參考資料



(億円)



(億円)



※1. 南欧を除くヨーロッパ地域

※2. 南欧は、イタリア、フランス、スペイン、ポルトガルを含む地域

(億円)

 ※末日レート 25.12期末:1\$=156.6円、26.12期2Q末:1\$=162.3円
 25.12期末:1€=184.3円、26.12期2Q末:1€=185.3円

	25.12期末	26.12期 2Q末	増減額	主な増減要因
流動資産	146.5	150.5	3.9	
現預金	30.9	38.5	7.6	
受取手形及び売掛金	22.4	21.9	△0.5	
商品及び製品	77.9	76.0	△1.8	前期末は年末商戦向け在庫が増加
原材料及び貯蔵品	8.1	6.5	△1.5	有償支給部品の減少
固定資産	40.8	38.8	△2.0	
有形固定資産	15.0	13.9	△1.0	
無形固定資産	19.5	18.1	△1.4	のれんの償却1.4億円
投資その他の資産	6.2	6.7	0.4	
資産合計	187.4	189.3	1.9	
流動負債	81.1	80.6	△0.4	
買掛金	14.8	13.1	△1.7	前期末は年末商戦に向けた在庫の積み上げによる仕入債務が増加
短期借入金	48.5	47.8	△0.7	
固定負債	32.0	30.6	△1.4	長期借入金が0.8億円減少
負債合計	113.2	111.2	△1.9	
資本金	2.1	2.1	-	
純資産合計	74.2	78.1	3.9	親会社株主に帰属する中間純利益2.7億円の計上および非支配株主持分1.2億円の増加等により増加
負債純資産合計	187.4	189.3	1.9	

(億円)

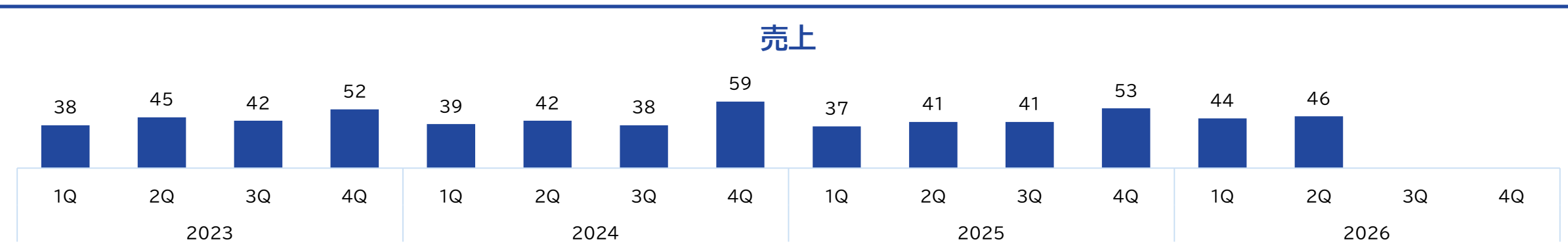
	25.12 第2Q累計実績	26.12 第2Q累計実績	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	5.9	11.4	5.5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1.3	△1.0	0.2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3.2	△3.3	△0.0
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1.4	0.5	1.9
現金及び現金同等物の増減額	△0.0	7.6	7.6
現金及び現金同等物の期首残高	32.8	30.3	△2.5
現金及び現金同等物の四半期末残高	32.8	37.9	5.1

■ 2026年12月期 第2四半期のキャッシュ・フロー(CF)増減要因(億円)

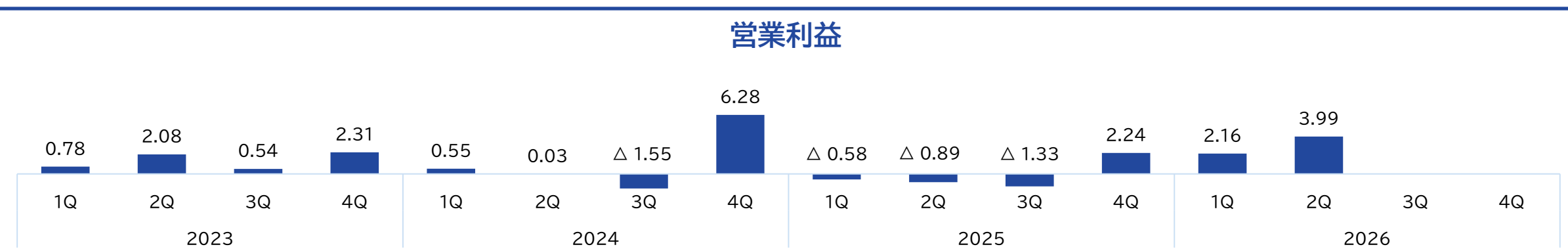
- ・営業活動によるCFの主な要因:税金等調整前中間純利益6.3 / 棚卸資産の減少額4.2 / 減価償却費1.7
- ・投資活動によるCFの主な要因:出資金の払込による支出△0.7 / 有形固定資産の取得による支出△0.3
- ・財務活動によるCFの主な要因:長期借入れによる収入2.0 / 短期借入金の純減額△0.7 / 長期借入金の返済による支出△0.2

(億円)

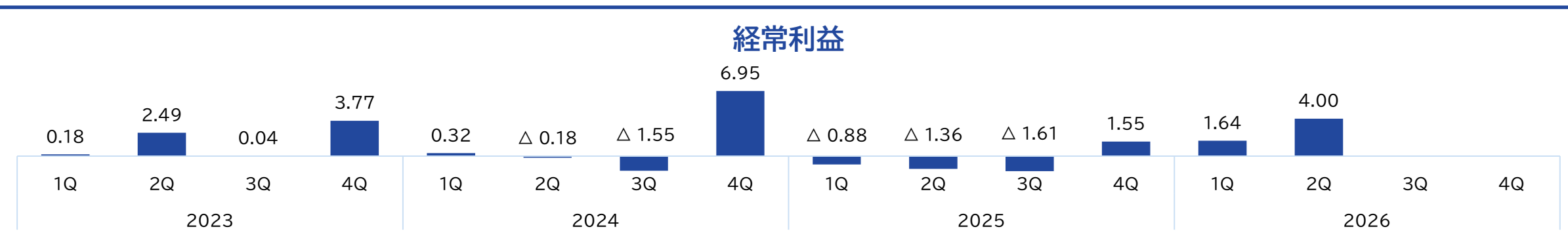
売上



営業利益



経常利益



(ご注意)本資料の将来の見通しに関する記述については、当社が現在入手可能な情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいて作成しており、潜在的なリスクや不確実性が内在しております。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります